

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標1 健康づくり・フレイル予防のための取り組み											
施策の方向（1）健康づくりの推進											
1	健康づくりや介護予防に関する情報提供の充実	●運動や食事などの生活習慣の改善を促す取り組みを促進するため、健康づくりや介護予防の重要性について、広く市民に周知していきます。	健康管理課 高齢福祉課 地域包括支援センター	自主的・積極的な健康づくりを実践していきけるよう支援していく。	B：概ね順調	生活習慣を見直し、生活習慣病の発症と重症化を予防するため、生活習慣病予防教室等を実施する。	継続	各種生活習慣病予防教室参加者総数	32人	143人	
2	健康診査の受診率向上	●健康診査の受診率向上のための方策として、未受診者への受診勧奨や生活習慣病予防の啓発を行います。また、がん検診を組み合わせ、健康診査内容の充実にも努め、より受診しやすい環境を整備します。 ●後期高齢者の生活習慣病の早期発見・早期治療を図るため、ぎふ・すこやか健診を実施します。	医療保険課	健診受診率を上げる。	B：概ね順調	健診内容の充実にも努め、引き続き未受診者への受診勧奨を実施する。	継続	①特定健診受診率 ②すこやか健診受診率	①39.4% ②21.3%	①39.7% ②24.2%	
3	ぎふ・さわやか口腔健診の実施	●後期高齢者の口腔機能低下の予防や肺炎予防のため、歯・歯肉の状態や口腔清掃状態・口腔機能などのチェックを行うぎふ・さわやか口腔健診を実施します。	医療保険課	口腔健診受診率を上げる。	B：概ね順調	口腔健診内容の充実にも努め、引き続き未受診者への受診勧奨を実施する。	継続	さわやか口腔健診受診率	4.50%	6.90%	
4	特定保健指導の実施率向上	●生活習慣を見直し、健康的な生活が継続できるよう、特定保健指導の実施率を向上させるとともに、生活習慣病の重症化予防に取り組めます。	医療保険課 健康管理課	事業基準値該当者の医療機関受診率の向上	C：不調	事業対象者を拡大し、継続して事業を実施する。	継続	特定保健指導実施率	14.1%	19.0% ※2023.8.1時点	
5	各種がん検診の実施	●疾病の早期発見・早期治療を推進するため、定期的ながん検診の受診勧奨に努めます。	健康管理課	受診者は増加傾向であるが、今後も更に受診者を増やすことが必要。	B：概ね順調	引き続きがん検診の周知や個別の受診勧奨を行い受診者の増加を図る。	継続	がん検診の受診者総数	21,400人	23,126人	
6	健康課題を抱える人に対するアウトリーチ支援の検討	●健診、医療レセプト、介護サービス情報等により把握した健康リスクの高い高齢者に対し、保健師や管理栄養士、理学療法士などが保健指導やリハビリテーションを行える体制づくりについて検討します。	健康管理課 高齢福祉課 医療保険課	医療専門職の確保	B：概ね順調	健康リスクの高い高齢者に対し、保健師や管理栄養士、理学療法士など医療専門の保健指導を継続し、健康状態の改善・維持を図る。	継続	①【-1糖、-2その他】 勧奨後病院受診率の変化 ②運動機能項目達成率(R4～) ③体重・BMI変化(R4～) ④口腔機能項目達成率(R5～) ⑤健診受診率(R5～)	①-1 0% ①-2 14.6%	①-1 未確定 ①-2 未確定 ②1人中1人改善(100%) ③未確定	
7	健康寿命の延伸に向けた取り組みの検討	●高齢者の健康寿命の延伸を図るため、保健事業と介護予防の一体的実施について検討します。	健康管理課 高齢福祉課 医療保険課	3課で問題点を共有し合い、議論しながらより有効な実施方法を検討する。	A：順調	3課で問題点を共有し合い、議論しながらより有効な実施方法を検討する。	継続	①連携会議の実施回数 ②作業部会の実施回数	①3回 ②3回	①2回 ②3回	
施策の方向（2）フレイル予防（介護予防）の推進											
1	はたけサロン事業	●農作業を通じて、運動機能や認知機能の低下を予防する「はたけサロン事業」を実施します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	予防効果の検証が難しい。	B：概ね順調	農作業を通じて運動機能や認知機能の低下を予防することが出来ることに加え、定期的に出外することで引き籠りの予防にも有効と考えられるため、今後も事業を継続する。	継続	①はたけサロン開催数 ②参加者人数	①40回 ②367人	①50回 ②626人	
2	フレイルチェックの推進	●地域の通いの場等で、運動・口腔・栄養・認知など多面的観点からフレイル状態のチェックを行い、健康相談や保健指導につなげます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	フレイルチェック受検者数を増やす。	A：順調	フレイルチェックをきっかけにして、日常的にフレイル予防に取り組む人を増やす。	継続	①フレイルチェック実施回数(延べ) ②参加者数(延べ)	①32回 ②580人	①51回 ②852人	
3	フレイル予防サポーターの養成	●地域でフレイル予防の普及啓発活動を行うサポーターを育成するため、研修を実施します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	フレイル予防サポーターを中心とした地域での主体的なフレイル予防の取り組みへと発展させる。	A：順調	通いの場等において活動できるフレイル予防サポーターを養成し、地域住民によるフレイル予防活動を推進する。	継続	①フレイル予防サポーター養成研修修了者数(累計)	①80人	①114人	

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
		4 フレイル予防に関する普及啓発	●フレイル予防の重要性や効果を広く認識してもらうため、広報紙やパンフレット等で周知・啓発を行います。	高齢福祉課 地域包括支援センター	「フレイル」の認知度を上げる。	A：順調	通いの場におけるフレイルチェック事業等を通じて、引き続き周知・啓発を継続する。	継続	①「フレイル」の認知度	-	①48%
		5 介護予防事業（運動）	●筋力アップ運動、ストレッチ体操、レクリエーションなど簡単にできる運動を楽しく行うことで、運動器の機能向上を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	抽選もれて教室に参加できない人がある。	B：概ね順調	定員を拡大して事業を実施する。	継続	各教室の参加者数 ①らくらく体操ひろば ②リズムでいきいき教室 ③講師派遣型運動教室 ④講師派遣型理学教室	①1,140人 ②864人 ③146人 ④176人	①2,013人 ②1,617人 ③207人 ④204人
		6 介護予防事業（口腔）	●生活習慣として正しい口腔清掃の必要性と口の機能の重要性について理解を深めることで、口腔機能の低下を予防します。 ●口腔清掃の指導、摂食・嚥下機能に関する機能訓練の指導等を実施します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	事業の参加者数を増やす。	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	各教室の参加者数 ①講師派遣型口腔教室 ②健口教室	①26人 ②71人	①92人 ②83人
		7 介護予防事業（栄養）	●高齢期はしっかり食べて「やせ」に気を付ける食生活の重要性について理解を深めます。食べる品目を意識し、栄養バランスを整えることで低栄養状態を防ぎ、筋肉量や免疫力の低下を防止します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	事業の参加者数を増やす。	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	各教室の参加者数 ①講師派遣型栄養教室 ②フレイル予防料理教室	①70人 ②-	①104人 ②33人
		8 介護予防教室支援サポーターの育成	●介護予防に関する人材養成のための研修や地域活動組織の育成・支援を実施します。	高齢福祉課	サポーター歴の長い方が多く、高齢化が進んでいる。	B：概ね順調	サポーター募集について継続して広く周知する。	継続	①介護予防教室支援サポーター数(累計)	①23人	①24人

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標2 生きがいづくりの推進											
施策の方向（1）生涯学習の充実											
	1	生涯学習講座の開催	●多彩な教養・趣味等の学習講座を開設し、仲間づくりや活動の輪を広げます。	いきいき楽習課	男性の受講者が少ない。講座終了後、サークル化しにくいことが多い。	A：順調	継続して事業を実施する。男性が参加しやすい講座、サークル化しやすいような講座も企画する。	継続	講座数、受講者数 ①長期講座 ②短期講座	①199講座、2748人 ②108講座、1512人	①192講座、2998人 ②154講座、2161人
	2	ハイカレッジ・ライフカレッジの開催	●60歳以上の方を対象とした「ハイカレッジ」や「ライフカレッジ」講座を開催し、生きがいづくりや社会参加を促していきます。	いきいき楽習課	受講者が減少している。	B：概ね順調	60歳以上の高齢者を対象にした「ハイカレッジ」や「ライフカレッジ」講座を開催し、生きがいづくりや社会参加を促す。	継続	講座数、受講者数 ①ライフカレッジ ②ハイカレッジ	①9講座、233人 ②2講座、68人	①9講座、228人 ②2講座、61人
	3	生涯学習登録講師制度の推進	●市民が互いにそれぞれの知識や技術、経験を地域に生かしていくための「生涯学習登録講師制度」を充実させ、「出前講座」等に活用し、学び合いの機会を広げます。	いきいき楽習課	登録講師の活躍の場を広げる。	A：順調	「登録講師制度」を充実させ、「出前講座」等に活用し、学び合いの機会を広げる。	継続	①生涯学習登録講師数 ②出前講座実施件数（登録講師）	①170人 ②25件	①210人 ②48件
	4	クラブ・サークル活動の支援	●活動に関する相談、活動場所の提供等により、自主的な生涯学習活動や地域活動を支援します。	いきいき楽習課	高齢化やコロナ禍による自粛によりクラブ・サークル会員の減少、クラブ・サークル解散が進んでいる。	B：概ね順調	引き続き、クラブ・サークル活動の支援を行う。「サークル無料体験会」など、会員増加につながる支援を行う。	継続	クラブ・サークル数	602団体	562団体
	5	高齢者趣味のクラブ活動の促進	●高齢者が趣味のクラブ活動を通じた仲間とのふれあいの中で、健康でいきいきと過ごせるよう組織づくりに努めます。	高齢福祉課	登録団体数がほぼ横ばいである。	B：概ね順調	広報及び市ホームページ（シニアライフ応援サイト開設）等にて普及促進活動に取り組んでいく。	継続	クラブ数	85団体	85団体
施策の方向（2）社会参加活動の推進											
	1	多様な福祉活動の展開	●ボランティアやNPO等が行う市民活動の活性化を図ります。	高齢福祉課	まちづくり活動助成金の応募団体数を増やす。	B：概ね順調	「各務原市まちづくり活動助成金」を通して、市民活動団体が行う活動や事業に要する経費の一部を助成することで、まちづくり活動の推進を継続する。	継続	まちづくり活動助成金交付団体数	7団体	7団体
	2	ボランティア人材の育成と確保	●各種のボランティア活動により多くの市民の参加が得られるよう、ボランティアの基礎知識や高齢者理解のための知識・援助技術等を学ぶ講座を開催します。 ●高齢者へのボランティア活動の普及啓発に努めるとともに、参加しやすい体制の整備を進めます。	社会福祉協議会	生活支援サポーター養成研修の受講者の増加を図る。	B：概ね順調	引続き研修を実施して、新たなサポーターを養成する。	継続	養成研修修了者数	10人	12人
	3	生活支援コーディネーターの配置	●既存の組織や取り組みを活用しながら、新たな住民主体の取り組みの創出、地域関係者のつながりづくり、地域の支援ニーズと取り組みのマッチング等のコーディネート業務を実施することにより、地域における日常生活の支援体制の整備を推進します。	高齢福祉課	地域の困りごとなどのニーズ調査は行っているが、サービス担い手の養成や活動とのマッチングなどにつなげることが課題。	B：概ね順調	引き続き地域のニーズを調査しながら、住民主体の活動を後押ししていく。	継続	わがまち茶話会参加者数 ①第1層協議体 ②第2層協議体	①37人 ②130人	①58人 ②323人
	4	わがまち茶話会の開催	●地域における日常生活の支援体制の整備に向けた、多様な地域関係者の参画が求められることから、わがまち茶話会の開催を通じて多様な地域主体間の情報共有及び連携促進を支援します。	高齢福祉課	わがまち茶話会への参加者の確保や地域による活動の差などがある。	B：概ね順調	わがまち茶話会を市民に広く知ってもらうため、周知に力を入れる。	継続	わがまち茶話会参加者数 ①第1層協議体 ②第2層協議体	①37人 ②130人	①58人 ②323人
	5	ボランティアハウス等通いの場の充実	●住民との交流により、閉じこもりを防止し、社会参加につなげます。 ●要介護状態にならないよう、生きがいづくりや健康づくりなどの活動に取り組みます。 ●空き家、空き店舗などを活用し、集いの場やボランティアハウスの整備及び活動の支援を行います。	福祉政策課 高齢福祉課 社会福祉協議会 地域包括支援センター	長期に渡るコロナ禍による自粛により、ボランティアハウスを継続する意欲が減退している。また、企業等と協働することができていない状況にある。	B：概ね順調	自分の行動できる範囲で行けるボランティアハウスがあれば、分け隔てなく参加できるよう、ボランティアハウスに対して通いの場への理解を呼びかける。	継続	地域の活動拠点数（ボランティアハウス、畑サロン、親子サロン、認定認知症カフェなど）	124拠点	126拠点
	6	シニアクラブの活性化	●シニアクラブ活動を多くの市民に周知するため、市民生活に密着した活動の周知啓発を図ります。 ●高齢者の生きがいづくりや社会貢献、地域福祉の担い手として、シニアクラブの活動を支援します。	高齢福祉課	登録者数は減少傾向であるため、より魅力のある活動について検討がなされている。	C：不調	シニアクラブ連合会において、活動のあり方を検討していく。	継続	登録者集	6,519人	6,047人

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
施策の方向（3）高齢者及び介護者への仕事の支援											
	1	シルバー人材センターへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ●働くことを通じて健康を維持・増進し、生きがいを得ることができる機会を提供するため、シルバー人材センターの機能の充実に向けた支援を行います。 ●多様な地域活動の担い手として、助け合いを基本とする活動を行えるよう支援します。 	高齢福祉課	会員数は定年制度の延長などから減少が続いており、今後の会員増員に向けた取り組みが必要である。	C：不調	市などの公共施設において会員募集のチラシを設置するほか、各種イベントやホームページなどでも周知をはかる。	継続	会員数	609人	623人
	2	高齢者の就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ●活力ある生涯現役社会の実現と、市内企業が抱える人手不足の課題に対応するため、「各務原市生涯現役促進協議会」による企業見学会やセミナーの開催などを通じて、高齢者の就労支援と社会参加を促進します。 ●ハローワーク岐阜と共同で、地域職業相談室を運営し、職業相談や紹介を行います。 ●岐阜県産業経済振興センター等と連携し、セミナーの開催などを通じて、就職支援を行います。 	商工振興課 高齢福祉課 介護保険課	<ul style="list-style-type: none"> ・採用意欲がある企業は限定的で、また、求職者の参加も少ないため、双方のニーズが低い。 ・体力や年齢のハードルによって、企業とのマッチングが難しい。 	B：概ね順調	ハローワーク岐阜と連携し、シニアに特化したものから、求職者全般を対象にしたもので、定期的に就職マッチング機会を設けていく。	継続	合同企業説明会・企業見学会の参加者数	98人	98人
	3	介護離職ゼロへの啓発・支援	<ul style="list-style-type: none"> ●介護と仕事の両立を目指す方の不安や悩みに応える相談機能の強化・支援体制の充実に努めます。 ●介護保険制度や介護休業制度の利用や手続きについて周知を図ります。 	高齢福祉課 介護保険課 地域包括支援センター	相談体制の維持・強化	B：概ね順調	地域包括支援センターや介護サービス事業者と定期的な情報交換会を開催し、様々な声を共有する。	継続	情報交換会の開催	12回	12回

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標3 多職種連携の推進											
施策の方向(1) 在宅医療・介護の連携強化											
	1	地域の医療・介護資源の把握	●地域の病院・診療所・歯科診療所・薬局・介護事業所等の情報を整理したガイドブックを作成します。	高齢福祉課 介護保険課	特になし	B: 概ね順調	今後もガイドブック発行を継続し、情報発信に努める。	継続	発行部数	3,500部	3,500部
	2	在宅医療・介護連携の課題の抽出	●医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の課題を抽出します。	高齢福祉課	医療と介護のより良い連携を推進する。	B: 概ね順調	今後も医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の課題を抽出に努める。	継続	在宅医療介護連携推進会議開催回数	1回	2回
	3	切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	●医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護関係者等の協力を得ながら、住民が必要とする在宅医療と在宅介護を切れ目なく受けられる体制の構築を図ります。	高齢福祉課	在宅医療と在宅介護を切れ目なく受けられる体制の構築を推進する。	B: 概ね順調	引き続き医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護関係者等の協力を得ながら、ニーズ調査及び意見交換会を行い、課題の抽出と解決に向けた取組みを進める。	継続	在宅医療介護連携推進会議開催回数	1回	2回
	4	人生会議の考え方を市民に広く浸透させる取り組みの推進	●人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)支援ツールを作成・配布し、家族や医療及び介護専門職等と今後の医療・介護について話し合う場の提供を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	引き続き市民をはじめと医療や介護関係者に人生会議の考え方を広く周知していく必要がある。	B: 概ね順調	引き続き出前講座やフォーラムなどを開催し普及啓発に努める。	継続	①出前講座実施回数 ②人生会議フォーラム実施の有無	①2回 ②無	①33回 ②有
	5	医療・介護関係者の情報共有の支援	●患者・利用者の在宅療養生活を支えるために、医療・歯科医療・薬局・介護関係者等の情報共有ツールの作成・活用を検討します。	高齢福祉課	MCSを使用できる環境にある事業所は多いものの、MCSを知らない専門職が多く、導入の可否の判断もついていない。	C: 不調	情報共有ツールに関する勉強会を開催する。	継続	情報共有ツールに関する研修会の実施回数	-	-
	6	在宅医療・介護連携に関する相談支援	●「在宅医療・介護連携支援ステーション」(東海中央病院内)において、医療と介護関係者からの連携支援に関する相談を受け付けます。 ●「在宅歯科医療・介護連携支援室『歯びねす』」において、訪問歯科診療・口腔ケアの相談及び歯科医の紹介等を行います。	高齢福祉課	医療と介護の連携のための相談業務を実施する。	B: 概ね順調	引き続き相談を受け付け、連携支援に努める。	継続	①在宅医療・介護支援ステーション相談受付件数 ②在宅歯科医療・介護連携支援室相談受付件数	①31件 ②29件	①19件 ②23件
	7	医療・介護関係者の研修	●地域の医療・歯科医療と介護関係者等の相互理解を深めるため、多職種によるグループワークや事例検討等の研修を行います。	高齢福祉課	より良い連携に向けて研修・交流会等の顔の見える環境づくりが必要。	B: 概ね順調	今後も医療や介護の専門職向けに、連携に関する研修会及び座談会を開催し相互理解を深める。	継続	①在宅医療・介護支援ステーション研修会/実施回数 ②在宅歯科医療・介護連携支援室相談受付件数	①3回 ②2回	①3回 ②2回
	8	地域住民への普及啓発	●在宅医療や介護に関する講演会や出前講座等を行い、住民の理解を促進します。 ●パンフレット等を作成・配布し、「在宅歯科医療・介護連携支援室『歯びねす』」の普及啓発に努めます。	高齢福祉課 介護保険課 地域包括支援センター	介護保険制度のことや在宅医療・介護連携に関する普及啓発を推進する。	B: 概ね順調	継続して、介護保険等に関する出前講座等を行い、住民の理解を促進する。	継続	出前講座の実施件数 ①介護保険 ②人生会議	①1回 ②2回	①4回 ②33回
施策の方向(2) 地域ケア会議の充実											
	1	地域ケア個別会議の開催	●第6期・第7期計画期間においては、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を進めてきました。今後も、地域ケア個別会議を継続して行い、自立支援・介護予防に資するケアマネジメントを検討していくとともに、地域に共通する課題や有効な支援策を明らかにしていきます。 ●地域に不足するサービス支援の開発や、有効な支援策の普遍化などについて検討を行います。	高齢福祉課 地域包括支援センター	新型コロナウイルスの影響により、開催回数が減少傾向であったが徐々に回復しつつある。Webでの開催を多くできるよう検討していく。	A: 順調	引き続き事業を実施し、個人の課題の把握及びその対応について各関係機関と共有を図っていく。	継続	地域ケア個別会議の開催数	17回	26回
	2	圏域ごとの地域ケア検討会議の開催	●個別ケア会議で蓄積された個々の課題を、地域の課題として関係者と共有・検討するため、圏域ごとの地域ケア検討会議を開催します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	新型コロナウイルスの影響により、開催回数が減少傾向であったが徐々に回復しつつある。Webでの開催を多くできるよう検討していく。	B: 概ね順調	引き続き各地域課題の把握の共有を図っていく。	継続	地域ケア検討会議の開催数	2回	6回

第8期かかがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
		3 地域ケア推進会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくため、代表者レベルの地域ケア推進会議を開催します。 ●需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行います。 	高齡福祉課 地域包括支援センター	政策に繋げるための地域課題の抽出に至っていない。	C：不調	地域ケア推進会議を開催し、各地域の課題の集約及びその対応について引き続き検討していく。	継続	地域ケア推進会議の開催数	0	0

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標4 安心して暮らすための支援											
施策の方向(1) 日常生活への支援											
1	要介護高齢者台帳の整備と充実	●要介護高齢者の把握のため、民生委員・児童委員の協力を得ながら台帳の整備を進めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	支援が必要な高齢者の把握について、近隣住民の関係の希薄化などから把握が難しくなっている。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	要介護高齢者台帳の登録者数	3,152人	3,082人	
2	緊急通報システム設置事業	●在宅のひとり暮らし高齢者などの体調の急変や不慮の事故などへの対応を目的に、住居に緊急通報システムを設置し、在宅生活での安全を確保します。 ●ひとり暮らし高齢者などの要介護高齢者の安否確認等、さらなる機能の拡充に努めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	新たにコールセンターを設置し、相談支援を実施する体制を構築したが利用率が低い。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	利用者数	661人	669人	
3	かかみがはら安心なネットワークの充実	●孤立死防止、行方不明者の早期発見のため、地域住民や事業者への啓発活動等を行います。 ●より多くの事業所等と協定を結び、見守りの目を増やし、安全・安心な体制の構築に努めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	事業への協力事業者数は順調に伸びている。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	登録事業者数	398事業者	409事業所	
4	高齢者いきいき生活サポート事業	●日常生活におけるゴミ出しや電球の交換などのちょっとした作業について、内容に見合った対価を支払うことでサービスの提供を受けることができるよう、体制の充実を図ります。	高齢福祉課 シルバー人材センター 地域包括支援センター	ごみ出し支援については当事業ではサービスを利用できない高齢者がいたため、別途委託事業とし支援を行った。	C: 不調	ごみ出し支援事業を実施したことにより、事業のあり方を検討していく。	継続	サポーター登録者数	100人	100人	
5	移動困難者支援事業	●買い物や通院等、日常生活の移動に不便や苦勞を感じる人が、安心してそれぞれの地域で暮らせるよう、必要な支援策を検討します。 ●外出促進により、高齢者のひきこもり予防を図ります。	商工振興課 高齢福祉課	地域住民が高齢者の移動ニーズを集約し、地域特性を踏まえながら高齢者の移動を支援する取り組みは、既存の制度でサポートされない市民を住民主体で救っていく地域づくりにつながるものであり、今後も継続して推進していく必要がある。	B: 概ね順調	今後も継続して、地域住民が主体となって高齢者の移動支援を行う団体に対して、補助事業を実施する。	継続	利用団体数	1	2	
6	紙おむつ等購入助成事業	●寝たきりや認知症の高齢者などを介護している家族への支援等を目的に、紙おむつ等の購入に要する費用の一部を助成します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	当事業は国の地域支援事業の一つとして実施されているが、今後廃止される予定があることから事業のあり方を検討していく必要がある。	B: 概ね順調	国の方針を注視しながら事業のあり方を検討していく。	継続	利用者数	445名	342名	
7	食の自立支援事業	●食事(夕食)を手渡しで配達することで、高齢者の安否確認を行います。	高齢福祉課 地域包括支援センター	制度を周知していく。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	利用者数	395名	427名	
8	家族介護者支援事業	●寝たきり等の高齢者を介護する家族を支援するため、日常生活圏域ごとに家族介護者への情報の発信、正しい介護知識・技術の習得、不安や悩みを共有できる場づくりを推進します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	各地域包括支援センターを通じ、家族介護者への支援を実施しているが利用者が少ない状況である。	B: 概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	家族介護者教室実施回数	1回	9回	
9	福祉有償運送の充実	●福祉有償運送実施事業所を対象に交通安全講習会等を定期的に開催し、安全・安心な輸送サービスとして提供できるよう努めます。	福祉政策課	運転手の高齢化が進んでいること。	B: 概ね順調	安全運転への高い意識を継続してもらうため、交通安全講習会を実施し、引き続き啓発を行う。	継続	福祉関係者受講者数(福祉有償運送事業所、介護保険サービス事業所、障害福祉サービス事業所など)	47名	53名	
10	在宅重度障害者交通費(タクシー・ガソリン)助成事業	●障がい者の外出支援及び家族の介護支援を目的に、本人が乗るために使うタクシー料金の一部と、本人が運転、または本人を乗せて家族が運転する自動車のガソリン代の一部を助成します。	社会福祉課	制度を周知する。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	給付件数 ①タクシー券 ②ガソリン券	①536件 ②1682件	①561件 ②1682件	
11	自動車の改造費助成事業	●障がい者の外出支援を目的として、自らが所有して運転する自動車の操行装置や駆動装置等の一部を改造する費用を助成します。	社会福祉課	制度を周知する。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	助成人数	6人	2人	
12	重度身体障害者介助用自動車購入・改造費助成事業(県制度)	●身体障がい者の外出支援、また家族介護者支援として事業の普及と活用を推進します。	社会福祉課	制度を周知する。	A: 順調	継続して事業を実施する。	継続	助成人数	3人	3人	

第8期かかがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
		13 特別障害者手当の給付による経済支援（国制度）	●在宅で重度障がい者（寝たきり状態の人）を介護している家族の経済的、精神的負担を軽減するため、制度の利用を促進します。	社会福祉課	制度を周知する。	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	延べ給付人数	2417人	2455人
		14 各務原市住民主体の支え合い活動支援事業補助金	●生活支援または介護予防に資する活動に取り組む住民主体の団体に対し、補助金を交付します。	高齢福祉課	制度を周知する。	B：概ね順調	地域のニーズを踏まえながら、継続して事業を実施する。	継続	利用団体件数	2件	2件
		15 各務原市住民主体の地域の高齢者等移動支援事業補助金	●移動支援の活動を行う住民主体の団体に対し、補助金を交付します。	高齢福祉課	一部の地域でしか利用されていない。	B：概ね順調	引き続き住民主体で移動支援を行う団体を支援する。	継続	利用団体件数	1件	2件
		16 各務原市公募型地域の介護予防教室支援事業補助金	●市内の介護サービス事業者が開催する介護予防教室に対し、補助金を交付します。	高齢福祉課	利用事業者数を増やす	B：概ね順調	引き続き介護予防教室を実施する事業者を支援する。	継続	利用事業者数	2件	2件
		17 各務原市地域支え合い活動支援事業補助金	●新たな地域の支え合い活動の立ち上げや拠点整備など、地域活動へ主体的に取り組む団体などに対し、補助金を交付します。	福祉政策課	県補助の廃止に伴い事業継続困難	B：概ね順調	県補助の廃止に伴い事業廃止	廃止	補助団体数	4団体	3団体

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
施策の方向（2）相談体制の充実											
	1	総合相談・支援事業	●地域の様々な関係機関と連携して、高齢者やその家族からの多様な相談や要望に応じ、必要とする支援を提供し、高齢者の抱える課題の解消を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	各地域包括支援センターでの相談内容は多岐に渡り内容も複雑なものが多いため対応に苦慮している。	A：順調	継続して関係機関と連携を図りながら、総合相談に応じる。	継続	総合相談件数	10,996件	11,469件
	2	生活相談センター「さぼーと」・基幹相談支援センター「すまいる」との連携強化	●社会福祉協議会が運営する「生活相談センターさぼーと」及び社会福祉事業団が運営する「基幹相談支援センターすまいる」との連携を強化します。	社会福祉課 高齢福祉課 社会福祉協議会 社会福祉事業団	複雑・多様化している相談への対応	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	相談延べ件数 ①さぼーと ②すまいる	①3,567人 ②3,628人	①1,291人 ②4,202人
施策の方向（3）地域包括支援センターの機能強化											
	1	地域包括支援センターの周知	●広報紙やウェブサイト等を通じ、地域包括支援センターの存在や役割を周知します。	高齢福祉課	各地域包括支援センターの認知度	A：順調	引き続き広報紙やパンフレットで周知を行っていく。	継続	一般高齢者のうち、認知している割合	—	47.1%
	2	地域包括支援センターを中心とした連携強化	●地域包括支援センターによるケース検討会などの実施を通じ、医療・介護連携や関係機関等との連携強化に努めます。	高齢福祉課	地域包括ネットワーク会議など、他機関との連携会議との実施頻度の低下	A：順調	継続して各関係機関との連携し、事例対応を行っていく。	継続	関係機関と連携して事業を展開した件数	49件	135件
	3	地域包括ケアの拠点としてのセンターづくり	●地域包括ケアの中心拠点として地域包括支援センターを位置づけ、介護保険サービスや市が行う高齢者福祉サービス、地域の支え合いによる支援活動等に取り組み、自助、互助、共助、公助をコーディネートするシステムの構築に努めます。	高齢福祉課	特に無し	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	相談件数	10,996件	11,469件
	4	要援護高齢者の情報の集約	●個人情報の保護等に留意しながら、要支援者の情報集約と更新を行います。	高齢福祉課 地域包括支援センター	特に無し	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	要援護高齢者台帳の登録者数	3,152人	3,082人
	5	介護予防ケアマネジメント事業	●自立支援のためのアセスメント、介護予防ケアプランを作成し、生活機能向上に向けた個別支援を図ります。 ●要支援認定者の予防給付（介護予防サービス）に関するマネジメント業務を行い、重度化抑制を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	予防プラン策定数が増加しており、業務が逼迫している。	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	予防プラン策定数	14,654件	15,683件
	6	権利擁護に関する取り組みの推進	●高齢者虐待や悪質商法等による被害から高齢者を守るため、成年後見制度の活用を図ります。 ●費用負担が難しい家庭には、制度の利用に係る費用負担を軽減します。 ●成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進のため、普及啓発に努めます。	社会福祉課 高齢福祉課 社会福祉協議会 地域包括支援センター	制度を周知する。	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	①市長申立件数 ②成年後見制度利用支援事業助成金支給件数 ③成年後見制度の相談件数	①4件 ②11件 ③1,048件	①1件 ②3件 ③856件
	7	地域包括支援センター運営協議会の充実	●医師会・歯科医師会・薬剤師会などの医療関係者や介護保険サービス事業所、各種団体の代表者などを交え、地域包括支援センターの運営に関して積極的な意見交換を行います。	高齢福祉課	特に無し	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	実施回数	3回	3回
	8	包括的・継続的ケアマネジメント支援の推進	●主治医、居宅介護支援専門員などとの多職種協働や地域との関係機関との連携を通じて、ケアマネジメントの支援に取り組みます。 ●地域の居宅介護支援専門員に対する個別相談窓口を設置し、ケアプラン作成技術の指導や個別指導・相談、支援困難事例への指導・助言を行います。 ●医療機関を含む関係施設やボランティアなど地域の社会資源と連携・協力体制の構築に努めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	特に無し	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	実施回数	4,816件	4,846件
	9	地域資源の連携強化	●医療機関を含む関係施設やボランティアなど地域の社会資源と連携・協力体制の構築に努めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	特に無し	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	実施回数	4,816件	4,846件

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
		10 地域包括支援センターの事業評価	●地域包括支援センターの現状と課題を適切に把握するとともに、円滑な運営・適切な事業実施のための人員配置の検討や個別事業の評価を行います。	高齢福祉課	特に無し	A：順調	継続して事業を実施する。	継続	事業評価の実施	実施	実施

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標5 認知症施策の推進											
施策の方向（1）認知症を予防する取り組み											
	1	脳を活性化する取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●「脳のパワーアップ教室」など、脳の活性化を図る取り組みを地域で推進します。 ●健康体操やレクリエーションなど簡単にできる運動を楽しく行うことで、運動機能の向上と脳の活性化を図ります。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	教室参加による参加者への効果がみえにくい。	B：概ね順調	参加者への効果検証を行うなど、内容の充実を図る。	継続	①開催数 ②参加人数	①136回 ②709人	①234回 ②850人
	2	フレイル（認知機能の低下）予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の通いの場などで、認知機能の低下をチェックする機会をつくり、認知機能の維持・向上に向けた取り組みを推進します。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	認知度が少なく、参加者数が伸びない。	B：概ね順調	より多くの方に知っていただけるよう、事業の周知に努める。	継続	①開催数 ②参加人数	①32回 ②582人	①51回 ②852人
	3	認知症チェックリストの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●「認知症チェックリスト」を広く周知し、認知機能低下の早期発見、早期対応に努めます。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	市民への周知	A：順調	継続して実施する。	継続	利用件数	2,301件	2,438件
	4	認知症に関する講演会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症について正しい理解を促すため、情報の提供や予防を期待できる取り組みなどを紹介します。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	令和3年度はコロナ禍で、令和4年度は施設が被災して、予定していた講演会を中止とした。	C：不調	認知症についての正しい理解を促進するための機会を設ける。	継続	開催数 参加人数	-	-
施策の方向（2）認知症との共生											
	1	認知症カフェの運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の方やその家族、地域住民が集まり、日頃の悩みなどを共有する「認知症カフェ」の運営を支援し、心理面のサポートを充実させます。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	認知症カフェの周知	B：概ね順調	「認知症カフェ」について周知し、気軽に参加できる場所にするよう取り組む。	継続	認知症カフェの件数	12件	12件
	2	認知症者外出支援事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ●「かかみがはら安心なネットワーク」を拡充し、認知症の方を地域住民や事業者などで見守る体制づくりを推進します。 ●QRコードを活用した見守りや個人賠償責任保険の公的支援など、認知症の方やその家族が安心して暮らせる体制の整備について検討します。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	利用者の関係者であるか否かに関わらず、見守りシールの存在をより多くの方に知ってもらう必要がある。	B：概ね順調	見守りシールの存在をより多くの方に知ってもらうよう努める。	継続	利用人数	57人	88人
	3	認知症者対応模擬訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の方が行方不明になった状況を想定し、声かけや保護、警察への通報などを地域住民と関係機関が連携して訓練します。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	コロナ禍で開催ができていなかった。	B：概ね順調	地域住民や関係機関と連携しながら訓練を実施する。	継続	参加人数	実施なし	21人
	4	認知症サポーター養成講座の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症地域支援推進員などが講師役となって行う「認知症サポーター養成講座」、小中学生を対象とした「認知症キッズサポーター養成講座」を実施します。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	認知症に理解のある人を増やす。	B：概ね順調	継続して取り組み、市民の認知症への理解を深める。	継続	認知症サポーター養成人数	128人	963人
	5	チームオレンジの構築に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症サポーターのさらなるステップアップを図り、認知症の方やその家族の些細な困りごとに対して支援する「チームオレンジ」の構築に向けた検討を行います。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	国が目標とする令和7年度までにチームオレンジを構築する。	B：概ね順調	「チームオレンジ」構築に向け、認知症サポーターステップアップ講座を開催する。	新規	ステップアップ講座参加人数	-	-
	6	本人ミーティングの開催	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の方が自身の希望等を本人同士で語り合う機会を創出し、本人の視点を施策立案等に反映するよう努めます。 	高齢福祉課 地域包括支援センター	認知症の方の想いを共有する仕組みづくり	B：概ね順調	本人ミーティングを定期的に開催できるよう取り組む。	継続	参加人数（本人）	実施なし	10人

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
施策の方向（3）認知症高齢者の支援体制の強化											
	1	認知症地域支援推進員による活動支援	●各地域包括支援センターに配置されている「認知症地域支援推進員」により、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関との連携を促進するとともに、認知症の方やその家族等への相談支援を充実します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	相談件数が多くなってきている。	B：概ね順調	連携を図りながら、継続して取り組む。	継続	認知症の相談件数	1178件	1224件
	2	認知症初期集中支援チームによる支援	●「認知症初期集中支援チーム」が認知症の疑いや軽度認知障害（MCI）のある人の家庭を訪問し、生活状況や認知機能等の情報収集及び評価を行うとともに、早期診断、適切な介護サービス等の利用につなげます。 ●関係機関と連携しながら、対象者の実情に応じた支援体制の構築を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	認知症初期集中支援チームへの依頼につながりにくい。	B：概ね順調	認知症の早期診断につながるよう、認知症初期集中支援チームの取り組みについて周知する。	継続	チーム支援人数	6人	6人
	3	認知症ガイドブック（ケアパス）の普及	●「認知症ガイドブック（ケアパス）」を通じ、軽度認知障害（MCI）から重度認知症まで、認知症の進行に応じた適切なサービスの利用及び認知症の理解促進につなげます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	市民へのケアパスの周知が行き届いていないと感じる。	B：概ね順調	引き続き相談対応の際に活用しながら、市民へ広く周知を図る。	継続	活用実績	相談の際に配布	相談の際に配布
	4	成年後見制度の利用促進	●認知症などにより、成年後見制度による支援が必要な方への利用促進を図るため、「各務原市成年後見支援センター」と連携し、制度の広報、相談支援を行います。また、後見人等の支援など支援体制の充実を図ります。	高齢福祉課 社会福祉協議会 地域包括支援センター	特に無し	A：順調	継続して実施する。	継続	相談件数	1,048件	856件
	5	市民後見人の養成	●地域で暮らす同じ市民の目線から後見活動を担ってもらうことを目的として、市民後見人の養成を行い、支援体制の充実を図ります。	高齢福祉課 社会福祉協議会	特に無し	A：順調	継続して実施する。	継続	実施状況	実施	実施
	6	地域連携ネットワークの整備（各務原市成年後見制度利用促進協議会の運営）	●地域連携ネットワークの機能・役割が適切に発揮・発展できるよう「各務原市成年後見制度利用促進協議会」を設置し、課題の検討や調整を継続的に協議していきます。	高齢福祉課 社会福祉協議会	特に無し	A：順調	継続して実施する。	継続	実施状況	実施	実施
	7	認知症の方の状況に応じた支援	●医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力を得ながら、認知症の方の状況に応じた医療的なサポート、口腔機能の管理及び服薬指導等を推進します。	高齢福祉課	特になし	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	関係機関との連携	情報共有を図った	情報共有を図った
	8	日常生活自立支援事業の普及	●認知症の方や知的障がい者、精神障がい者などのうち、判断能力が不十分な人が地域において自立した生活を送れるよう、利用者との契約に基づき福祉サービスの利用援助などを行います。	社会福祉協議会	特になし	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	契約件数	855件 （うち新規18件）	986件 （うち新規26件）
	9	若年性認知症患者への支援	●「若年性認知症コーディネーター」と連携し、若年性認知症患者の相談支援、居場所づくり、就労・社会参加の促進に努めます。	高齢福祉課 社会福祉課 地域包括支援センター	制度を周知する。	B：概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	関係機関との連携	相談実績なし	相談実績なし

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標6 地域で暮らし、地域で支える環境づくり											
施策の方向(1) 福祉教育・人材育成の推進											
1	福祉体験学習(小中学生対象)	●将来の介護分野の人材確保に向けた取り組みとして、福祉の職場を体験し、福祉の仕事のやりがいや魅力を知ってもらうことを目的に実施します。	福祉政策課	特に中学生を対象としたコースについて参加者数が限定的である。	B:概ね順調	事業のさらなる魅力向上や認知度向上に向けて、実施方法や体験内容の見直し、周知方法の工夫などを検討する。	継続	参加者数 1小学生・高齢者コース 2小学生・障がい者コース 3中学生・高齢者コース 4中学生・障がい者コース	コロナ禍のため未実施	オンライン開催 1:19人 2:19人 3:9人 4:11人	
2	福祉推進校指定事業の推進	●市内の小・中・高校及び養護学校を福祉推進校に指定し、「総合的な学習の時間」などを利用して独自の福祉教育の取り組みを支援します。	社会福祉協議会	授業の回数を増やす。	B:概ね順調	学齢期から福祉の理解を深めるため、引続き指定事業を推進する。	継続	①指定校数 ②開催数	①26校 ②75回	①26校 ②38回	
3	児童・生徒のボランティア活動などの推進	●ボランティア活動への興味・関心と自発的な活動意欲を育むため、ボランティア手帳を活用し、児童・生徒のボランティア精神の向上に努めます。 ●ボランティアに進んで取り組む児童・生徒の増加を目指すとともに、活動内容の充実を図ります。	学校教育課	・新型コロナウイルス感染症のため、独居老人宅の訪問など、地域在住の高齢者と直接交流する形が少なくなっていたので、コロナ前の程度に回復させていく。	B:概ね順調	各小中学校においてボランティア手帳を活用し、50回達成者には認証状を渡して表彰するなどして、ボランティア意識の高揚や啓発を図るとともに、各校での取組を市教委により紹介する。	継続	ボランティア50回達成率	小学生81% 中学生66% 全体77%	小学生81% 中学生66% 全体76%	
4	福祉コミュニティのネットワーク化	●民生委員・児童委員、近隣ケアグループ、自治会長、ボランティアハウス等が連携した福祉コミュニティの形成を図ります。	高齢福祉課 地域包括支援センター	コロナ禍以前の状況への回復	B:概ね順調	引続き関係団体が連携することで、福祉コミュニティの形成を図る。	継続	福祉コミュニティの形成	実施	実施	
施策の方向(2) 安全・安心の環境づくり											
1	公共施設の総合的な整備	●公共施設において、段差解消やエレベーターの設置など、高齢者に配慮した施設づくりを促進します。	建築指導課	各公共施設のバリアフリー化。市営住宅の集会所の他、バリアフリー化がされていない施設がある。	B:概ね順調	継続して実施する。	継続	①実施物件	3件	3件	
2	歩行者用道路の整備	●高齢の歩行者に配慮した歩道を整備します。また、ベンチ等を設置し、休息の取れる環境づくりに努めます。□	道路課	高齢の歩行者等に配慮した歩道整備	A:順調	高齢者の歩行者に配慮した歩道を整備し、ベンチを設置するなど休息のとれる環境づくりに努める。	継続	歩道設置・バリアフリー化整備	L=2,734m	L=756m	
3	公園・緑地の整備	●公園・緑地について、子どもから高齢者まで幅広い世代で交流や健康づくりを行える場となるよう、環境の整備を進めます。 ●バリアフリーに対応した公園の充実を図ります。	河川公園課	高齢者等に配慮した公園・緑地の整備	A:順調	公園・緑地について、子どもから高齢者まで幅広い世代で交流や健康づくりを行える場となるよう、バリアフリーなど環境の整備を進めます。	継続	新規整備、リニューアル公園数	N=0公園	N=2公園	
4	ふれあいバス・ふれあいタクシー・チョイスかかみがはらの運行	●ふれあいバス・ふれあいタクシー・チョイスかかみがはらの運行について、市民のニーズを把握しながら、より効率的・効果的なルートの検討を行い、利用促進に努めます。	商工振興課	多様な移動ニーズへの対応	A:順調	今後も、ふれあいバス等懇談会で市民のニーズを把握し、意見を反映しながら運行を継続していく。	継続	利用者数	208,211人	231,919人	
5	災害時における要配慮者への支援体制づくり	●避難行動要支援者名簿を自治会長及び民生委員・児童委員に配布し、普段からの見守り等を通じて災害時の支援体制づくりを促進します。	防災対策課	支援体制づくり(避難支援者を決める)。	B:概ね順調	避難支援者を決めていただくよう依頼文書を送付する。	継続	避難支援者が決まっている人数	760人	675人	
6	消費者被害の防止に向けた啓発	●警察と連携し、出前講座を開催するなど、様々な取り組みを通じて悪質商法や特殊詐欺等への注意喚起を行います。	まちづくり推進課	出前講座の実施団体数を増やす。	B:概ね順調	継続して啓発を実施する。	継続	出前講座(悪質商法)実施団体数	0団体 (コロナの影響)	12団体	
7	高齢者虐待の防止	●高齢者虐待の相談窓口を市民へ周知するとともに、保健医療福祉サービスや警察などとの連携を強化し、高齢者虐待の早期発見、防止に努めます。	高齢福祉課 地域包括支援センター	各地域包括支援センターの認知度を上げる	B:概ね順調	連携を図りながら、継続して取り組む。	継続	虐待報告件数	31件	26件	
8	養護老人ホームへの入所支援	●生活困窮や社会的孤立など様々な課題を抱え、居宅での生活が困難な高齢者に対し、住まいが確保されるよう養護老人ホームの適切な運営に努めます。	高齢福祉課	特に無し	B:概ね順調	継続して事業を実施する。	継続	措置入所者数	44人	42人	

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本 目標	施策の 方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針 カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
		9 住まいの確保	●高齢者がその身体の状況に応じて、自身に合った住みよい住まいを選択し、それぞれの住まいで自立した生活が送れるよう、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの情報提供を行います。	介護保険課	特になし	B：概ね順調	ガイドブック、ウェブサイトでの情報発信を継続する。	継続	-	-	-
		10 近隣ケアグループの活動の推進・支援	●ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯など、様々な不安や不自由を感じながら生活している人が、地域の中で安心して暮らしていけるよう、誰でも無理なくできる「見守り・声かけ運動」などを行います。活動経費の助成やボランティア保険加入、グループ員への研修により、近隣ケアグループ活動が活発になるよう支援していきます。	高齢福祉課	近隣ケアグループの活動をより多くの市民に知ってもらい必要がある。	B：概ね順調	地域のつながりや助け合いは必要だと思う高齢者は多いため、本活動がつながりづくりにおいて有効であることを知ってもらえるよう普及啓発に努める。	継続	①近隣ケアグループ登録数 ②活動員数	①288 ②1960	①283 ②1,926
		11 地域の通いの場（高齢者サロン）の把握	●ボランティアハウスなどの地域の通いの場の情報を集約し、介護予防が必要な高齢者への参加を促します。	高齢福祉課 地域包括支援センター	参加者数を増やす	B：概ね順調	引き続き、ボランティアハウスなどの地域の通いの場への参加を促す。	継続	①ボランティアハウス数 ②参加者数	①100か所 ②3,322人	①98か所 ②2,658人

第8期かかみがはら高齢者総合プラン施策・事業進捗状況

基本理念 高齢者にやさしいまち かかみがはら ～住み慣れた地域で安心できる暮らし～

基本目標	施策の方向	事業名	内容	担当部署	現在の課題	評価	今後の実施方針	方針カテゴリ	実績		
									指標	R3年度	R4年度
基本目標7 介護保険事業の適正な運営											
施策の方向（1）介護給付適正化計画の推進											
	1	縦覧点検・医療情報との突合	<ul style="list-style-type: none"> ●受給者ごとに複数月にまたがる介護報酬の支払状況を確認し、提供されたサービスの整合性、算定回数・算定日数等の点検を行います。 ●受給者の後期高齢者医療や国民健康保険の入院情報と介護保険の給付情報を突合し、給付日数や提供されたサービスの整合性の点検を行います。 	介護保険課	特になし	A：順調	継続して、国保連合会から縦覧点検情報を年2回、医療情報との突合情報を毎月受け取り点検を実施する。	継続	縦覧点検・医療情報との突合 実施率	100%	100%
	2	ケアプランの点検	<ul style="list-style-type: none"> ●プラン内容について、介護支援専門員の「気づき」を促すとともに、「自立支援に資するケアマネジメント」の実践に向けた取り組み支援を目指します。 	介護保険課	特になし	B：概ね順調	継続して、書面によるケアプラン点検とオンラインによる方法によるケアプラン点検を実施していく。	継続	ケアプラン点検数	78件	137件
	3	要介護認定の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ●指定居宅介護支援事業所等に委託している区分変更申請及び更新申請に係る認定調査の結果について、点検等を実施します。 ●適正かつ公正な介護認定が行えるよう、調査員・審査委員に対して研修を行います。 	介護保険課	特になし	B：概ね順調	質の向上を高めるため内容の充実を一層図っていく。調査業の書面による全件チェックと、現状と同程度で訪問チェックを実施していく。	継続	調査員研修の実施 書面チェック件数 訪問チェック件数	調査員研修 0回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） 書面チェック 5,929件（全件） 訪問チェック 2件（抽出）	調査員研修 0回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） 書面チェック 6,171件（全件） 訪問チェック 3件（抽出）
	4	住宅改修等の点検	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅改修の点検により、内容が自立支援につながるものであるか、適切な内容となっているかを確認します。 ●福祉用具の利用者における必要性等を確認します。 	介護保険課	特になし	B：概ね順調	継続して、全件書面での点検を実施する。	継続	点検件数	住宅改修：634件 福祉用具：602件	住宅改修：615件 福祉用具：607件
	5	介護給付費通知	<ul style="list-style-type: none"> ●受給者本人に対して、事業者からの介護報酬の請求及び費用の給付状況等について通知します。 	介護保険課	給付費通知を3か月ごと年4回発送しているが、給付適正化に対して効果が高い。	A：順調	給付費通知は年4回の発送を年3回に見直しを行っていく。	継続	発送件数	22165件	22766件
施策の方向（3）介護人材の確保											
	1	介護人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●岐阜県福祉人材総合支援センターやハローワーク岐阜と連携し、福祉人材の確保と定着を図ります。 ●福祉分野合同の企業説明会・相談会の開催を通じて、介護人材の確保に努めます。 ●介護分野への就労を促進するため、介護サービス分野就職ガイドブックを発行します。 ●岐阜県が実施する介護人材の確保や業務効率化につながる各種事業の活用支援を行います。 ●市内大型ショッピングモールにおける介護事業所作品展覧会の開催を通じ、介護事業所の知名度やイメージアップを図り、介護人材確保を側面支援します。 	介護保険課 商工振興課	様々な業界で人材不足は問題であり、他業種と比較して仕事の魅力が伝わる発信力が課題である。	B：概ね順調	ハローワーク岐阜と連携して、合同企業説明会を開催するなど、介護人材確保についての事業を継続していく。	継続	①福祉分野合同の企業説明会・相談会の開催 ②福祉分野合同の企業説明会・相談会の参加者数 ③介護サービス分野就職ガイドブックの発行 ④介護事業所作品展覧会の開催	①1回 ②16人 ③1回 ④1回	①2回 ②57人 ③1回 ④1回